

双葉郡内で紅葉会

昨年「引き続き」Jリーグで開催

双風

臨時版



横山浩志会長ご挨拶



ご挨拶をする鈴木恵一支部長



武内雅之校長講話

県内各地から

令和六年度「紅葉会」が、十一月八日（金曜日）に楢葉町の「Jヴィレッジ」で開催されました。

双葉町の幼小中学校が、現在もいわき市勿来で学校再開していることから、参加の便を考慮し、昨年に続き、いわき市に近い楢葉町での開催となりました。

参加者は、双葉支部会員が十三名、校長会からは十五名の計二十八名の皆さんに、県内各地からご出席いただきました。

編集発行
 福島県公立学校
 退職校長会双葉支部
発行責任者
 鈴木 恵一

事務局
 ☎ 961-0873
 福島県白河市
 松並1-8
 小野田 敏之
 090-2885-6492

近況を報告する参加者のみなさん



会に移りました。出席した会員の皆様と校長先生全員から、自己紹介と現況についてご報告をいただき、和やかな懇談のうちにあつという間の二時間が過ぎました。

会津にお勤めの郡内出身の校長先生も駆けつけてくださり、楽しく、賑やかな一夜となりました。次年度の紅葉会が楽しみです。

校長先生をへんぎ

鈴木恵一支部長、横山浩志双葉郡小中学校長連絡協議会長の挨拶に始まり、富岡小学校長（中学校長兼務）の武内雅之先生に、富岡町、双葉郡内の学校の現状と課題、目指している教育についてお話をいただきました。

その後、会員の紺野廣光先生のご発声で乾杯、懇親

お祝い申し上げます

令和六年度、本支部会員の猪狩保先生が百歳の寿詞を、また渡邊友綱先生が九十五歳の祝寿を、岸真先生と宇佐見忠良先生が八十八歳の祝詞を受けられました。心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。



○本年度、八十八歳の賀詞を受けられたお二人から原稿をお寄せいただきました。

雑感

岸 真氏

平成九年、三十五年間の教員生活を退職。退職後は、町の行政や各種団体の要職に携わり、又高校、大学や元教員時代の同僚達と旅行やパークゴルフ、楽しみ会などをしながらのんびりと生活しております。

ところが突然、東日本大震災と東電の事故により避



農林水産大臣への要望のひとコマ

難生活を余儀なくされ、平成二十九年の避難解除まで栃木県那須町で八年間生活。浪江町の自宅に戻ってからは、住宅の整理や庭木の手入れ、野菜作りに汗を流す毎日でした。

現在は、以前から双葉地方森林組合の役員を勤めて

おりました関係で、前組合長が退任され、その後任の組合長として富岡町の事務所で二十数名の職員と共に双葉地方の森林の復興と再生に日々頑張っております。

震災から十四年経過した山林は、荒れ放題。それに放射線量の高い山林には入

山できず、思うような管理が出来ないのが現状です。震災前の山に戻すのが組合

の使命であり、今後は県、国の協力を得ながら双葉の

山を森にしたいと思っております。

組合長退任後は百歳をめ

ざし、自分の趣味を生かし楽しみながら悔いのない人生を終わりにしたいと思っております。

避難生活13年後の

我が想い

宇佐見 忠良氏

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から丸十三年になる現状ですが、福島県は今なお数多くの県民が県内外への避難を余儀なくされています。

私もその一人として「こ

んな遠くへ来たもんだ」という思いがいつも頭から離

れません。しかし、現在生活している地域は市街地からは離れていて割と静かな

場所です。地形的にも浪江町に似ているような気がし

ます。

浪江では西に阿武隈高地、北に室原川、南に高瀬川の清流、近くに浪江中学校が

ありましたが、ここでは西

に奥羽山脈、北に摺上川、南に松川の流れ、近くに北沢又小学校があります。私も今年で米寿を迎え「ここ

まで長生きしたもんだ」と

いう思いを強く感じながら、この静かな環境の中で日々の生活を楽しんでいます。

出来るだけ家族に迷惑を掛けたくないとの思いから

特に二点に留意し、健康を維持するように努力してい

ます。身体的には毎朝の散歩とラジオ体操、集会所を

利用しての卓球、浪江町で支援している体操教室への

参加等。精神的には定期的に参加される福島市社協主催の「居場所」、福大災ボ

ラの「福茶サロン」、福島コープの「お茶会」、その

他集会所で開催される行事にはできるだけ参加し、多

くの人達と会話するように心掛けています。

幸いこの北沢又団地には

浪江町から避難している人達が沢山居るので、気楽に会話できるのが利点です。

我が息子も同じ市内に居住

しているので心の支えになっ

ています。六月には米寿の祝いで息子や孫達に山形県

の銀山温泉に連れていって

もらい、東南アジアからの観光客が多いのにはびっく

りしましたが、自分の心に残る銀山温泉を再訪できた

のは良かったと思います。

今後は残り少ない余生を静かにすごしていきたいと思

っております。

夕日射す高嶺に添いて

合間に見ゆる 雪立てり



雪兔かな

○喜寿を迎えられた方の中から、三名の方々にも原稿をお寄せいただきました。

マツタケと十年日記

吉田 弘見氏

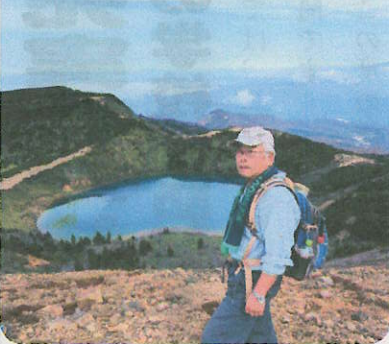
十年日記とは、十年分で一冊の日記帳です。ある日のページが、十年分の十段に区切っており、その日の出来事を毎年同じページに記入するようになっていきます。だから、昨年のきょう、あるいは数年前のきょう、何をしたかすぐ分かります。私はこれをずっと続けていきます。



きっかけは、

それから、日記をつけ始めました。ページを広げると、上段の方には過去の私がいって、私の足跡が残っています。冠婚葬祭、子や孫の成長、ドライブや旅行、趣味の活動等、内容は多岐にわたります。私の人生そのものが詰まっています。「六年前は京都の紅葉見物」とか、「三年前のきょうはゴルフで優勝」などと、意外な気づきや発見があつて面白いのです。また、忘れかけた旅行のコースを、ページをめくって再確認して喜んでいきます。記憶は消え去つても、記録は残つて役に立つことを実感しています。

2024/10/26 一切経山からの魔女の瞳



近況報告

松本 貞 男氏

う速度を遅くするためにも、十年日記を続けるつもりです。近くの耕作放棄地を借りて家庭菜園を楽しんでいます。故郷からトラクターやマメトラを運び、いろいろな野菜を栽培しています。後期高齢者にとってはかなり苦痛になってきました。夫婦二人なので大半は都会に住む子供達に送り喜ばれています。

神経痛で整形外科や鍼灸整骨院に通いながらも

フや登山の運動をしています。これらの目的は双葉郡からの友人達と唯一会って語らい楽しむためです。いずれも回数が多く、喜寿の身体にとってはこれも疲労困憊です。回数を減らさなければと考えています。登山は最近低山に絞っています。こんなわけでかなり多忙で旅行などには出かけられません。これからは少し疲労が蓄積しないような後期高齢者として余生を送りたいと考えています。

喜寿なれど、

わが意欲衰えず

林 洋一氏

今年の春先、私に一冊の本が届きました。送り主は私が会津若松に避難していた時に知り合った絵本作家でした。

〈満月の夜 会津の森にふくろうじんちゃんの声が

ペルー、リマの学園で



響く……」会津の森に棲む生き物たちが聞かせてくれた愛情あふれるお話です。欲望にかられ、争いの絶えない人間の世界とは対極の世界のお話です。

一読後、私は深い感動を覚え、心が洗われる思いでした。文体は会津弁を中心にして、書かれており、場面設定は南会津の山奥あたりと思われまます。この絵本を、以前に国際交流で訪れた折りに歓迎してくれた、リマにある「ビデオ・ノゲチ学園」

の子供たちに読んでもらいたいと思ひ、翻訳を思ひ立ちました。ペルーの公用語はスペイン語なので、翻訳が必要です。30年前から学んできたスペイン語が活かせる時が来しました。原作者も快く翻訳に同意してくれました。この企画については費用も含め、原作者、出版社をはじめ、関係者の賛同をいただきました。間もなく出版の予定です。ペルーの子供たちの喜ぶ姿を想像しながら、クリスマスまで届けられるよう、準備を進めております。

書名【まんまる月の夜 unano che de luna llena】日本語・スペイン語並記版全46ページ
 作：前田智子 絵：半沢政人
 翻訳：林洋一 愛育出版（東京）



故郷双葉の教育充実のために 廣野町・双葉町の学校を訪問

今回の学校訪問には、双葉支部から、鈴木恵一支部長、松本貞男、遠藤弘通両副支部長、松岡保夫会計、小野田庶務の五名が参加いたしました。

十月三十一日（木）に、廣野小中学校と双葉幼小中学校を訪問させて頂きました。今年度より経費節約のため、一日二町村（昨年

訪問です。この度の学校訪問を通して、子どもたちが一生懸命に取り組む様子、校長先生はじめ先生方が意欲的に課題に取り組むお話を伺い、また、学校の活気にあふれる雰囲気に触れることができま

した。震災と原

発事故後の教育復興・創生に、各校がご努力いただきました。関係の皆さまに敬意と感謝を申し上げます。本支部といたしましても、被災体験を風化させないよう活動を続けるとともに、故郷双葉の教育充実のため

に陰ながら応援してまいりたいと考えております。今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

太平洋を望む廣野小学校の校長室で



現職の校長先生方、頑張ってます！

双葉小中の校長先生方と



双葉幼小中の授業を参観



廣野中の校長先生と



編集後記

お悔やみ申し上げます

令和六年度、本支部会員の佐藤富重先生が五月に、佐光慶造先生が十月に、ご逝去なされました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

○東北地区の退職校長会が昨年の十月に福島市で開催されました。大会二日目には、相馬経由で被災地の双葉郡をバスで見学。鈴木支部長が双葉の現状を説明されました。「福浪線、津島を通過してもらえれば、よりご理解いただけたのに残念」と鈴木支部長。この思いは、支部の皆さんの思いだと思います。

○県の会報「松風」に、紺野廣光先生が郷土の祭り浪江町の「安波祭」を執筆されました。どうぞ、お楽しみに。